# 当院における外来受診患者の家族にむけた心肺蘇生講習会開催にむけての意識調査

# The opinion poll toward BLS lecture holding towards the families of outpatients at Shinshu University

信州大学医学部附属病院救急部　浅田和子　手塚理絵　水野博江

《要　旨》

最近では、医療者だけでなく一般の人々にも、一次救命処置の知識や技術を習得できる機会が増えている。今回、院内で心肺蘇生講習会を開催するにあたり、当院に通院されている患者の家族を対象に、心肺蘇生講習会についてのアンケート調査を行った。その結果、講習会に対する関心度は高く、必要性を感じているという答えが多かった。その反面、関心はあるもののなかなか受講できないとする答えもあり、その背景には、「物理的」「心理的」「身体的」といった要因が大きな問題となっていることがわかった。それらの背景を考慮し、今後の講習会開催に向けて検討した。

《キーワード》

心肺蘇生講習会、患者の家族、実態調査

## 1．はじめに

基礎疾患を有する患者が心肺停止となるリスクは高く、その家族はbystanderとして心肺蘇生を実施出来ることが望ましい。そこで患者家族に対し、医師・看護師による院内心肺蘇生講習会（以下講習会）を開催することは有用であると考えた。当院においては平成15年度に救急部が新設され、外来受診された患者家族を対象にした講習会開催は初めての試みである。今回開催にむけて、患者家族には講習会の需要がどの程度あり、その背景となるものは何かを探り、今後の講習会開催に役立てたいと考え事前調査を行った。今回はその事前調査の結果を報告する。

## 2．研究目的

当院における講習会開催にむけ、外来受診した患者家族の①講習に対する需要②受講を希望するまたは希望しない背景となる要因③講習会への要望について明らかにする。

３．対象と方法

調査期間は、平成１６年６月の３日間で、当院の全診療科を対象に、外来受診した患者の家族で、調査に同意を得られた132名。調査方法は、独自の質問紙を作成し自己記載法を用いた。アンケートの回収は外来に専用の回収箱を設置し、帰り際に投函してもらった。

４．倫理的配慮

調査にあたっては、研究目的の説明・プライバシーの保護・調査への協力にかかわらず不利益は生じない事を説明した。

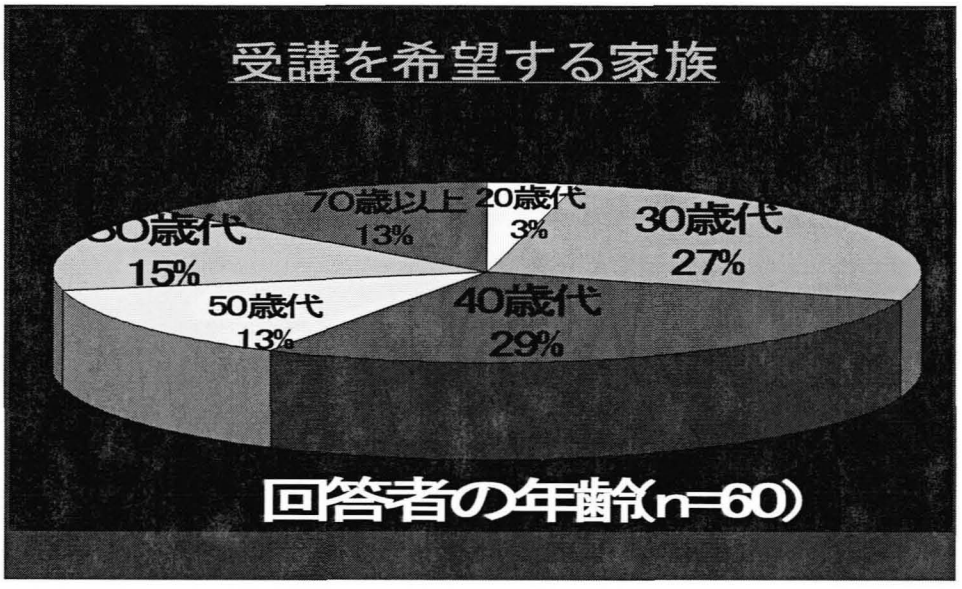
５．結果

対象者全体のうち有効回答数は１２０で、アンケートの回収率は 90.6％であった。集計は、講習会参加を希望する者、希望しない者とに分けて行った。

受講を希望すると回答した家族が６０名、受講を希望しないと回答した家族が６０名であった。

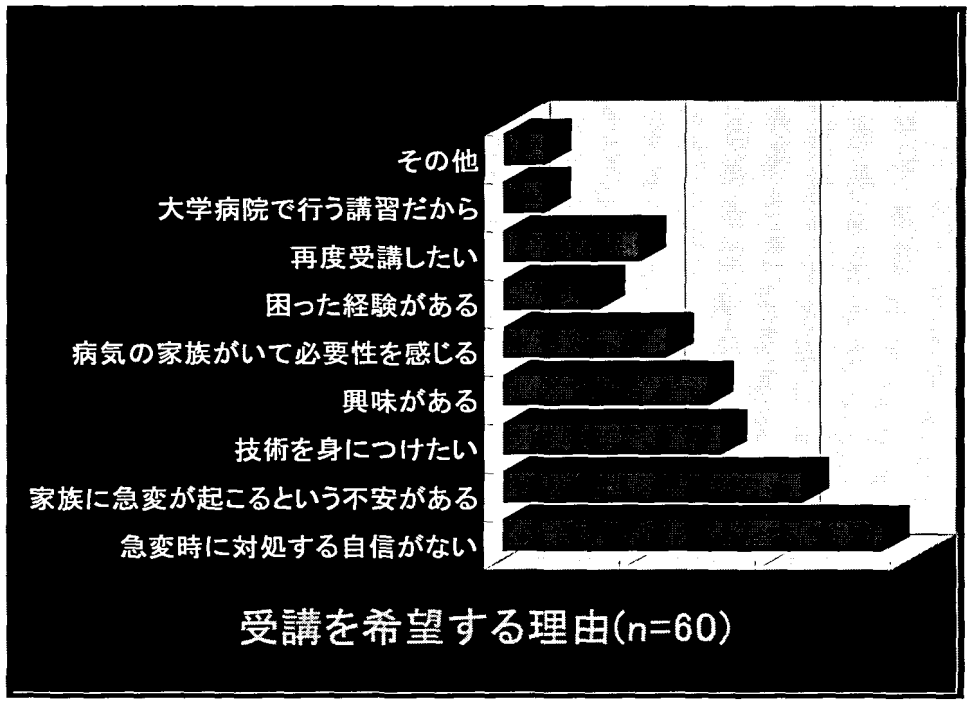
内訳を見ると＜受講を希望する＞と回答した家族の年齢は、３０歳代が２７％、４０歳代が２９％であり、６０歳代では１５％、７０歳代以上では１３％であった。（図―１）

図―１

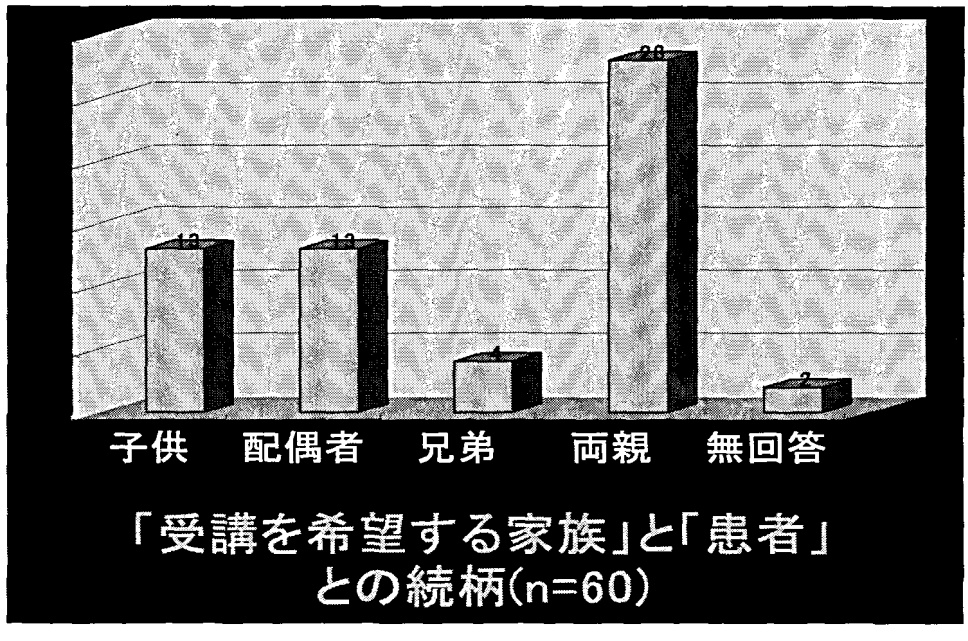


＜受講を希望する理由＞として、一番多かった回答は、急変時に対処する自信が無い、が２８人。家族に急変が起こるという不安がある、が２２人。技術を身につけたい、が１６人であった。（図―２）回答者から見た患者の続柄は、患者が回答者の両親であるが２８人と最も多く、次いで、配偶者、子供が１３人と同数であった。（図―３）

図－２

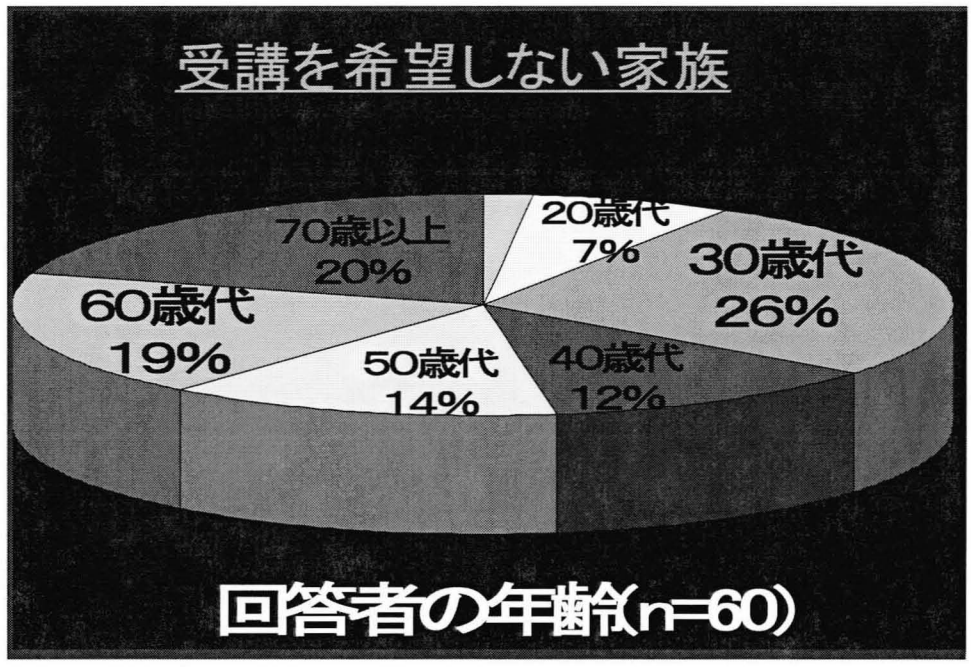



図－３



<受講を希望しない>、と回答した家族では、回答した家族の年齢は、３０歳代が２６%、４０歳代が１２%、６０歳代が１９%、７０歳代以上が２０%であった。(図―4)

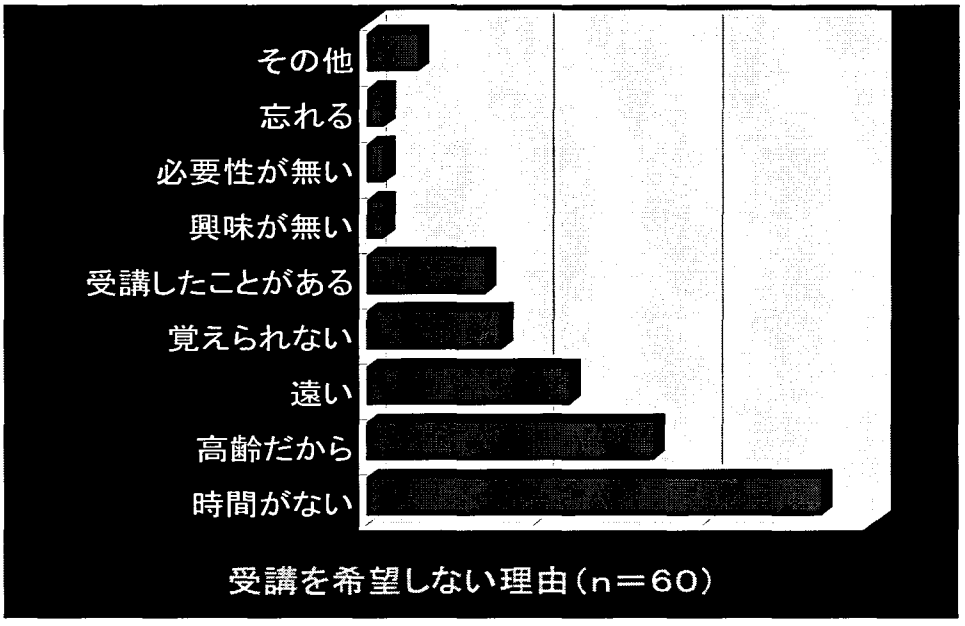
図－4



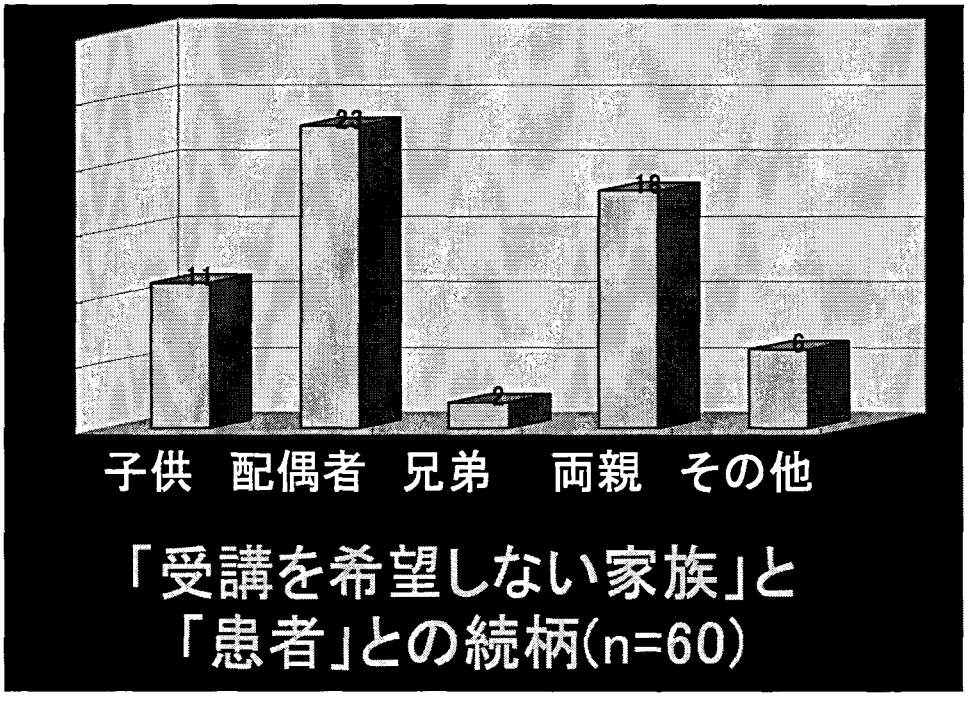

<受講を希望しない理由>として、時間が無い、と回答した家族が２７人と一番多く、高齢だから、が１７人、自宅から病院までが遠いから、が１２人で、覚えられない、以前に受講したことがあるからなどの理由も聞かれた。(図―5) 受講を希望しない、と回答された家族から見た患者との続柄は、回答者の配偶者が一番多く 23 人で、次いで両親が 18 人、子供が 11 人であった。(図―6)

このほかに、アンケートの中で、今まで講習会を受講した経験や、家族が仕事をしているか、患者と同居しているか、通院年数なども質問したが、それらの回答は、カイ二乗検定法で、比較したが、受講希望の有無のどちらにも、有意差は見られない結果であった。

図－5


その他
忘れる
必要性が無い
興味が無い
受講したことがある
覚えられない
遠い
高齢だから
時間がない
受講を希望しない理由（n＝60）

図－6


11
23
2
18
6
子供
配偶者
兄弟
両親
その他
「受講を希望しない家族」と
「患者」との続柄(n=60)

また講習会に対する要望、心配や不安に思うことを、自由記載で意見を聞いたところ以下の返答があった。

- 小児救急やスポーツ外傷時の対処方法の講習希望
- 不測の事態があった場合、落ち着いて、学んだことが出来るか不安
- 知識がまったく無くても受講できるのか
- 家族に心臓マッサージをしたことがあるが、判断ミスではないか、と恐怖を感じた面もある
- 少しばかり技術を覚えても、間違えた方法で行えば心配である
- 簡単に最低限の蘇生法を教えてほしい
- 無料で講習会を開いてほしい
- 講習会は回数をやって欲しい
- 大学まで遠い

## 6．まとめ

受講希望者は、何らかの疾患を持つ高齢の両親を抱える世代の３０歳代・４０歳代が、約６０％占めていた。受講を希望しないものは、何らかの疾患を持つ高齢の配偶者を抱えた世代の６０歳代・７０歳代が約４０％を占めていた。

受講を希望する理由として、「急変時に対処する自信がない」「不安がある」が多数を占めていた。その背景には、患者の不測の事態に対する危機感があり、日常生活での安心を得たいといった家族の心理を反映していると考えられた。

また、受講を希望しない理由は、受講を必要としていないということではなく、「時間がない」「遠い」など物理的要因と、「高齢だから」といった身体的要因が背景となっていたことも分かった。

自由記載から、「新しい技術・知識を覚えることへの不安」「手技の失敗への不安」といった心理的要因も背景として見えてきた。

今回のアンケート調査から、心肺蘇生講習会に関する動機には、家族が抱える、物理的要因、身体的要因、心理的要因の３つが大きな軸となっていると考えらたため　今後の院内講習会は、受講生の心理的側面を十分配慮し、短時間で、定期的に開催して、回数を重ねることや、高齢者にも分かりやすい講習会の工夫をし、さらに、希望をしない方へも参加したいと思えるような講習会を計画していく必要があると考える。

参考文献

1）　渡邉幸子他;：心肺蘇生法の再講習を通して家族援助を考える，日本救急看護学会雑誌第５巻１号、Ｐ－138,　2003

2）　村井嘉子他：看護基礎教育における一次救命技術習得に関する研究、日本救急看護学会雑誌、第４巻２号、P-39-47、2003